

第 16 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年3月9日

開 会 中

場所 第 1 委員会室

第 16 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年3月9日(金曜日)

午前9時59分開議

午前11時8分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通する事項
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(14人)

委員長 池田和貴
副委員長 高野洋介
委員 氷室雄一郎
委員 藤川隆夫
委員 松田三郎
委員 溝口幸治
委員 西 聖一
委員 淵上陽一
委員 橋口海平
委員 楠本千秋
委員 岩田智子
委員 高島和男
委員 大平雄一
委員 吉田孝平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 奥 園 惣 幸
政策審議監兼

商工政策課長 中 川 誠

観光経済交流局長 原 山 明 博

観光物産課長 永 友 義 孝

国際課長 小金丸 健

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

首席審議員兼国際

スポーツ大会推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 山 本 國 雄

教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西 村 浩 二

総務部

首席審議員兼人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 斉 藤 浩 幸

地域振興課審議員

兼課長補佐 鈴 和 幸

文化企画・世界遺産

推進課長 手 島 伸 介

健康福祉部

障がい者支援課長 奥 山 晃 正

土木部

道路都市局長 宮 部 静 夫

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 森 本 信 明

交通規制課長 瀬 河 清 信

事務局職員出席者

政務調査課主幹 福 島 哲 也

政務調査課主幹 佐 藤 誠

午前9時59分開議

○池田和貴委員長 定刻前ではありますが、皆さんおそろいのございますので、ただいまから第16回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催します。

なお、本委員会に7名の傍聴の申し込みが
あっておりますので、これを認めることとい
たします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付をしております本日の次第に
従い、まず執行部から一括して説明を受け、
その後、質疑は課題ごとに行いたいと思いま
す。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと
考えておりますので、説明につきましては簡
潔をお願いをいたします。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 おはよう
ございます。国際スポーツ大会推進課長の水
谷でございます。

説明は、失礼して座ってさせていただきます
す。

まず、資料の確認をさせていただきます。

本日、資料は、A4横のページ上に「第16
回特別委員会資料」と記載されているものが
1部、それと、A4縦の「国際スポーツ大会
推進関連事業一覧」と表頭に書かれているも
のが1部、この2つでございます。あります
でしょうか。はい。

では、資料に沿って4つの付託案件を順に
説明させていただきます。

まず、A4横の特別委員会資料をお願いし
ます。

表紙は、目次でございます。開いていただ
いて、1ページをお願いいたします。

大会の概要についてです。

(3)の、大会開催会場は表記のとおり4会
場で予定しておりますが、これについては後
ほど国際ハンドボール連盟の視察のときにお
いて説明させていただきます。

(4)の参加チームは、全部で24チームで
す。開催国日本に加え、12月に行われたドイ
ツ大会でフランスが優勝しましたので、出場
権を獲得しています。今後、各大会の予選な
どを通じて、出場国が決まってきます。

大会は、24チームが4つのグループに分か
れ、それぞれの予選会場で総当たり戦のリー
グ戦を行い、上位チームは決勝ラウンドへ進
み、下位チームは順位決定戦、プレジデント
カップを行うこととなっております。

この12月に行われたドイツ大会は、日本、
熊本大会の前の最後の女子世界選手権になり
ますので、当委員会からも池田委員長、高野
副委員長にも御参加いただき、視察を行って
まいりました。

2ページをお願いいたします。

ドイツ大会は国内6都市で行われ、大会を
通じた総入場者数は、歴代2位の約23万
7,000人ございました。

優勝はフランス、以下ノルウェー、オラン
ダですけれども、今回、日本チームも大変健
闘いたしました。世界の強豪国と互角に渡り
合い、予選ラウンドは3位で決勝ラウンドに
進み、決勝ラウンドでは今大会3位のオラン
ダに、延長の末、惜しくも破れました。

デンマーク人の監督を新たに迎え、日本で
行われる世界選手権、オリンピックに向け
着実に強化が進んでおります。大会の盛り上
がりには日本チームの活躍が欠かせません
ので、さらなる強化に期待したいと思います。

大会運営についてですが、お国柄か、街中
や会場の装飾は全体的にシンプルなものでし
た。開・閉会式などのセレモニーも特に派手
な演出はなく、競技中は観客と会場が一体と
なってハンドボールを楽しむ、厳かな雰囲気
がありました。

試合以外にも、会場の内外の各場面を入念
に視察してまいりまして、3ページから4ペ
ージにかけて、その様子を記しています。

4ページの写真は、会場の医療体制や警備
状況、また会場内のアクセス区分を示すA
Dカードの発給状況や記者会見などの様子
です。

5ページは、熊本大会のPRについてで
す。大会プログラムに広告を掲載するほか、

日本チームが予選を行った会場や準決勝、決勝が行われたハンブルグでは、ブースを設置し熊本での観戦を呼びかけてまいりました。

大会最終日には、小野副知事も参加し、閉会式ではドイツから日本・熊本への大会旗が引き継がれ、熊本での大会開催をアピールしてまいりました。その様子は、6ページの写真に掲載しております。

また、視察の合間には、国際ハンドボール連盟のムスタファ会長やドイツハンドボール協会を表敬訪問し、日本・熊本大会に向けて意見交換を行うとともに、ハンブルグ州議会議長によるレセプションにも招かれ、出席をされました。

次、7ページをお願いします。

国際ハンドボール連盟・IHFの視察についてです。

2月の16日から20日の5日間、国際ハンドボール連盟の役員2名による視察が行われました。

昨年3月の視察に続き2回目ですが、予定している試合会場、練習会場、選手、役員の宿泊施設を、それぞれ現地に赴き視察が行われました。

(1)ですが、昨年の3月の視察では、試合会場について山鹿市の総合体育館は観客席数が少ない、また宿泊施設については、八代会場の八代市内においては、客室の広さ、山鹿会場のホテル、南関町のホテル・セキアについては、試合会場からの移動時間などについて課題があるとの指摘を受けていました。

その後、これらの課題に対しIHFとの間でテレビ会議や直接面会し、解決に向け協議を続けた結果、山鹿会場については予選会場としてではなく、予選リーグ下位チームによる順位戦、プレジデントカップの実施に向けて検討することとし、その場合もう一つ必要な予選会場は県立体育館を想定し検討を進めました。

また、ホテルについては、それぞれ施設の

活用方法や移動ルートなどを検討することとしました。

その後、今回の視察に向け、まず観客席については八代、山鹿総合体育館の固定席に加え、できるだけ仮設席を多く設置することで観客席数をふやす案を検討しました。

また、八代会場のホテルについてはシングルルームが多いことから、シングルルーム3部屋を選手2人が使い、まん中の部屋にソファなどを置き、くつろいだり荷物を置くスペースをつくることを提案しました。

また、南関会場については、試合会場とホテルの間を何度も試走し最短ルートを探った結果、九州縦貫道の菊水インターチェンジ、南関インターチェンジを使ったルートを提案しました。

なお、今回の視察においては、これらの改善案を提示し、山鹿の試合会場においてはプレジデントカップではなく、改めて予選会場の試合として開催してもらいたいと提案しました。

しかし、本会議の一般質問で部長がお答えしましたとおり、八代会場は観客席数とホテルの広さが、山鹿会場は観客席数とホテルの立地環境が、世界選手権大会の基準を満たしていないとの指摘を受けました。

具体的には、観客席について八代市総合体育館には1,470席、山鹿市総合体育館には1,090席の固定席があります。今回これに仮設席を加え、それぞれ約2,500席、約2,200席の観客席数を提案しました。

しかし、視察団からは、例えば仮設席を設置予定の場所にはオフィシャル席を置かなければならないため、そこに仮設席は置けないなどの指摘がありました。

また、宿泊施設について八代のホテルでは3つのシングルルームを2人で使う想定で、実際部屋も見てもらいましたが、選手たちは部屋でお互いコミュニケーションをとりながら休息するので、3つのシングルルー

ムが直接つながっていなければならないなどの指摘がありました。

また、山鹿会場のホテルまでの移動ルートは、実際、視察団が同乗し試走しました。試合会場とホテルの移動時間は30分以内との基準がありますけれども、今回32分でしたのでおおむね大丈夫かと思いましたが、選手たちは大型バスで移動するので25%増しでカウントする必要があるとの指摘がありました。

さらに、今回、八代の試合会場については、テレビ放映権を取得した国際映像制作会社から、天井が低く、カメラを高い位置に設置できないため国際映像が制作できないとの指摘を受けました。

これらの指摘を受け、当方からは、山鹿市同様、八代市も会場は満員になります、熊本県民が楽しみにしている大会なので、ぜひ八代市も含めて開催してもらいたいと申し入れをいたしましたけれども、IHFからは、それは理解するけれども世界選手権はオリンピックに次ぐ世界規模の大会であり、かつ翌年の東京オリンピックの予選も兼ねる重要な大会であることから、一定の基準が求められる、現状では八代市の会場を試会場とすることは困難であるとの考えが示されました。

IHFでは、今回の視察報告をもとに、理事会において試合会場などが決定されることになっています。このため、早急に改善案を提示することが必要なため、八代市や日本ハンドボール協会とともに、まずは国際映像制作会社と協議しながら、さらなる改善案を検討しています。

県としては、試合会場を県北、県央、県南にバランスよく配置することで、県全体が盛り上がり集客に結びつくことから、熊本市、八代市、山鹿市の4会場での開催が大会の開催に必要であると考えております。引き続き、八代市と山鹿市、日本ハンドボール協会や熊本県ハンドボール協会と一丸となって、八代市、山鹿市で大会が開催できるよう強く

要請してまいります。

次に、8ページをお願いします。

大会のPR活動についてです。

まず、(1)は大会キャッチフレーズです。キャッチフレーズは、小山薫堂氏を選定委員長とし、「Hand in hand」、「1つのボールが世界を結ぶ」に決まりました。手と手を携えて協力するという意味を持つ「Hand in hand」に「1つのボールが世界を結ぶ」というフレーズを合わせることで、勝利への思いを込めた1つのボールが手から手へつながって広がっていくように、世界中の選手や応援する人々の間に、国境を越えた人の輪がつけられていくことを願ったものです。さきのドイツ大会の閉会式で、会場の大型ビジョンに映し出し、お披露目をしました。

また、先日の日本ハンドボールリーグの会場で、作者の橋口さん 熊本市在住の方ですけれども、表彰を行いました。今後、大会のPRに大いに活用してまいります。

9ページをお願いします。

都市装飾は、現在、街中の装飾をさまざまなところで行っています。写真は、左のほうはJR九州さんの御協力を得て、熊本駅新幹線口に、ラグビーとあわせて大型看板を設置しました。

また、右はJR熊本駅白川口前の階段の装飾です。

この階段の装飾は、立ちどまって記念撮影をされる方も多く、地元タウン誌にも写真スポットとして取り上げられております。SNSでの発信も、多いのではないかと考えております。

(3)の熊本のハンドボールのあゆみ展も、会場地やショッピングモールなどで開催し、県民の理解を高め気運醸成を図っております。10ページの写真は、その模様です。

昨年開設した大会ホームページは、12月末には英語版も開設しました。引き続き、メルマガ読者へのプレゼントキャンペーンや、今

後お笑い芸人とくまモンが共演したPR動画などを掲載するなど、楽しくハンドボールに親しめる内容にしていまいます。

11ページは、各種イベントでPRしているものを例示しております。地元オムロンが優勝した年末の日本選手権では、センターサークルに大会のシンボルマークを掲示しました。

男子の決勝は、NHK教育で全国放送されましたので、全国のハンドボールファンに大会の告知ができたのではないかと考えております。

また、1月に熊本で行われたバスケットBリーグのオールスターでも、ラグビーワールドカップとあわせて熊本での国際イベントの開催のPRを行いました。

12ページをお願いします。

ボランティアの募集についてです。

来年度からボランティア募集を開始するに当たりまして、スポーツボランティアを身近に感じてもらうため12月に研修会を開催しましたところ、定員を上回る130人近くの方が受講されました。

今定例会の一般質問にもありましたとおり、ラグビーワールドカップとあわせて、国際スポーツ大会への関心は高まってきていると考えております。

より多くの県民の皆様がボランティアに参加し、県全体が盛り上がっていくよう、募集や育成にしっかり取り組んでまいります。

次の競技普及については、体育保健課から説明をさせていただきます。

○西村体育保健課長 体育保健課でございます。着座にて説明させていただきます。

12ページの6、競技普及について御説明いたします。

本課では、ハンドボールの競技普及を目的に、元日本代表監督であります岩本真典氏や、元日本代表選手の内田雄士氏を初め、指

導力にすぐれた人材を活用しまして、(1)のハンドボール教室を実施しております。

参加につきましては、本年度までの2カ年間で、児童1,209人、教職員120人の参加がありまして、競技の魅力や楽しさを伝えるとともに、教職員の指導方法等を伝える活動を実施してまいりました。

また、競技に日常的に慣れ親しむことができますように、ハンドボールを県内の各小学校へ配布したところでございます。

さらに、体育の日に(3)「ふれあいスポーツ」ハンドボール教室、こちらのほうを主催しまして開催しました。本年度は、日本リーグ大同特殊鋼のトップ選手5名を講師に招きまして、約100名の児童生徒を対象に教室を開催したところでございます。

なお、ラグビーにつきましては資料の20ページに、ハンドボールと同様に取り組みを行っているところでございます。詳細については、そちらのほうをまたごらんいただければと思うところでございます。

続きまして、13ページの7番になりますけれども、平成30年度当初予算につきまして御説明をいたします。

本課のほうで行っている事業につきましては、丸の2つ目に入っております国際スポーツ大会競技普及事業でございます。

これにつきましては、タグラグビー教室、ハンドボール教室を今年度同様開催を予定しておりまして、予算につきましては、合わせて513万7,000円を計上しているところでございます。

以上でございます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 女子ハンドボール選手権大会の予算について、御説明いたします。

来年度は、2億2,100万円余をお願いしております。大会会場計画策定や大会役員研修、日本ハンドボール協会と連携し、プレ大

会としての国際親善試合やアジア選手権の開催、ボランティア募集やファンクラブの設立、宿泊・輸送の計画策定などを行ってまいります。

最後に、今後のスケジュールですが、来年度は4月のラグビーワールドカップにおけるボランティア募集にあわせ、できるだけ早くハンドボールも募集を開始したいと考えております。

また、国際親善試合を夏に、アジア選手権を秋から冬にかけて開催し気運を盛り上げていくとともに、大会運営の経験値を高めていきたいと考えています。

来年6月には、参加する24チームが決まるため、ドロー会議、組み合わせ抽選会を行い、いよいよ大会本番を迎えていきます。

次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件についてでございます。

14ページをお願いいたします。

大会概要です。

熊本では、県民総合運動公園陸上競技場が会場となります。

後ほど説明いたしますが、今大会に向けた座席の改修に伴いまして、収容人員がこれまでの3万2,000人から約3万人となります。

15ページをお願いします。

熊本で行われる2試合の対戦カードのうち、ウェールズの対戦相手が決まっておりましたが、カナダとの対戦に勝った南米のウルグアイに決まりました。熊本での試合は、予選リーグ後半の10月、いずれも日曜日の夕方に行われます。対戦カードも、ラグビーの伝統国シックスネーションズのフランスとウェールズの試合が組まれています。その対戦相手は、いずれもあなどれず、いずれも決勝トーナメントに向け、好試合が期待されます。

当委員会の管外視察が行われた埼玉県熊谷市の方は、このような熊本のカードは正直うらやましいと言われていました。この3月19

日からは、開催都市住民販売も始まります。このような強みをしっかり伝えて、チケット販売、集客につなげてまいります。

次の、16ページの上のほうには、その料金を表で示しております。

下のほうをお願いいたします。

既に熊本での試合が決まっていたウェールズ、フランス、トンガのチーム関係者が試合会場などを視察いたしました。各チームからは、芝の状態などしっかり管理されている素晴らしい試合会場だというコメントがありました。

今後、組織委員会との調整を経て、この春以降、公認チームキャンプ地が決まっていきます。

17ページをお願いします。

ファンゾーンについてです。ファンゾーンとは、ほかの試合会場の試合のパブリックビューイングを行ったり、ハイネケンビールなどの大会の公式スポンサーがブースを出して、観戦者や開催都市の住民が、試合会場とは別にラグビーワールドカップを楽しむスペースです。

熊本では、このファンゾーンを熊本市中心部の桜町再開発ビル周辺で、日程は熊本での試合開催日や、日本代表戦が行われる日を中心に開催したいと考えています。

試合会場までのシャトルバスの運行も行う予定ですので、多くの観戦者にお越しいただくとともに、ファンゾーン周辺の繁華街にも繰り出していただきたいと考えております。

また、開催都市住民向けのチケット販売も始まることから、さまざまなPR活動も行っております。熊本市の目抜き通りで、大型の看板やフラッグを設置するほか、地元の銀行やデパートの協力を得て、各店舗のモニターで告知の映像を放映していただいております。

18ページをお願いいたします。

ですが、4月28日土曜日に、オールブラ

ックスジュニアと言われるニュージーランド学生代表と九州選抜の試合が開催されることになりました。世界チャンピオンのニュージーランド代表が試合前に行う「ハカ」を行うとのことですので、ワールドカップに向けた気運醸成のためにも多くの皆様に観戦していただくよう、県ラグビーフットボール協会と連携して取り組んでまいります。

6は、ラグビーワールドカップの公式マスコットです。ユニット名は「レンジー」で、獅子をイメージしたマスコットです。

チケットの開催都市住民先行販売の初日となる3月19日には、熊本にやって来てくれることになっております。

19ページは、会場整備についてです。

土木部の御協力をいただき、急ピッチで進められています。高さ17メートルのゴールポストや照明が完成するほか、先週金曜日完成したチーム更衣室やドーピングコントロール室、また一部整備したトレーニング機器について、報道機関に公開しました。ロアッソ熊本や高校ラグビー部の生徒たちも、早速使っていただいております。ワールドカップ本番のみならず、多くの皆様に利用していただきたいと思っております。

右上の は、座席の改修についてです。今回、観客席の一部を背もたれ式に改修しています。

まず、メインスタンドの座席をリニューアルするとともに、これまでのメインスタンドの背もたれ席はバックスタンドに再利用し、備えつけました。その際、取り外したバックスタンドの背もたれがない座席は不要になりますが、これも有効活用できないか現在検討しております。

今後、座席の改修は段階的に進めていきますけれども、今回の改修で座席が3万2,000席から3万席に減少します。これは、熊本市の火災予防条例において、劇場などの屋外の客席は横に並んだ固定席で、背もたれが

ない場合は、20席以下ごとに80センチ以上の通路を保有することとされていますが、背もたれがあれば通路は10席以下ごとに必要となるためです。

スタジアムのコーナーの座席の上層部には、最大15席並ぶ配置となっておりますので、今回、背もたれ付きへの改修に伴う通路の確保により、座席が減るものでございます。

このほか、2面目の大型スクリーンの設置やトイレの改修、また音響設備や監視カメラ等についても、大会開催に向けて整備してまいります。

20ページをお願いいたします。

8は、地域交流計画についてです。ラグビーワールドカップの開催により、多くの選手、観客が来熊することを契機として、大会参加国との交流が図られます。その交流計画が国の承認を受ければ、その経費に国の財政支援が受けられることとなりました。

県と熊本市は、まずフランスを対象国とした交流計画の承認を受けました。今後、大会前から大会後まで継続した交流を行っていくこととしております。

次の競技の普及は、先ほど説明がありましたので、21ページ10の来年度予算をお願いいたします。総額で5億9,300万円余をお願いしております。

来年度は、先ほどのスタジアム整備に引き続き取り組むほか、スタジアムの仮設工事の設計に着手します。

また、宿泊輸送や会場整備についても計画を進めるほか、ファンゾーンやボランティア運営についても準備を進めてまいります。

最後にスケジュールですが、来年4月からは組織委員会としての業務も本格化することから、その地方組織LOCが熊本に設置されます。

また、同じく4月には組織委員会の大会ボランティアの募集が始まりますので、地元開

催都市としてのボランティアも、あわせて募集を開始してまいります。

また、同じ九州で開催する福岡県、大分県とは、これまでも共同でプロモーション活動などを行っておりますが、来年はそれぞれの対戦カードも決まったこともあり、海外での合同プロモーションも計画しています。

4月には、毎年香港で7人制ラグビーの国際大会が開催されます。香港ではラグビー人気が高く、チームは出場しませんが誘客が見込まれることから、また7月には九州3県での試合開催が見込まれるフランスにおいて、合同でプロモーションを計画しています。

本県は、女子ハンドボール世界選手権もあることから、あわせてPRを行っていきたいと思っております。

次に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件についてです。

22ページは大会の概要ですので、省略いたします。

23ページをお願いいたします。

キャンプ地誘致についてです。

かねてから誘致を進めていたインドネシアバドミントンチームから昨年末、熊本で東京オリンピックの事前キャンプを行いたいとの連絡がありました。これを受け、先月4日、首都ジャカルタにおいて、知事も参加し事前キャンプの基本合意書に調印を行いました。

事前キャンプは、再来年7月の東京オリンピックの直前になりますが、受け入れ準備を着実に進めてまいります。

は、台湾バドミントンチームの誘致についてです。バドミントンが盛んな八代市が実行委員会を設置し、誘致活動を始められました。1月には早速、訪台され、台湾バドミントン協会と、今後の進め方などの意見交換をされました。

県としては、これら市町村の誘致活動についてもしっかり支援してまいります。

24ページをお願いいたします。

本日から平昌パラリンピックが始まりますけれども、出場するパラアイスホッケーの日本代表合宿がアクアドームくまもとで行われました。大会直前の合宿でしたけれども、練習は公開され、また体験教室も行われ、多くの子どもたちとの交流も行われました。

次の、25ページのドイツの水泳チームから、その次の選手育成、また飛んでいただいて済みません、29ページの聖火リレーについては、前定例会から大きな変化はございませんので、本日は説明は省略させていただきます。

なお、聖火リレーにつきましては、来年度実行委員会を設置し、ルートなどの検討を進めてまいります。

30ページをお願いします。

東京オリンピックは復興五輪ということで、開催都市東京都は熊本地震の支援をこれまでもいろいろ行っていたいております。

このたび、 ですが復興支援の映像、「2020年。東京と熊本で会いましょう。」を作成し、平昌オリンピックの期間中、現地のジャパンハウスで放送されました。また、復興支援リーフレットも現在作成されており、都内の高校の授業等で活用していただける予定となっております。

また、31ページの ですが、あす土曜日に熊本市の花畑広場でパブリックビューイングを行い、平昌オリンピックの映像を放映したり、さまざまなステージイベントが行われます。これらは、全て東京都の予算で、復興支援として実施していただいているものです。

3は、来年度の予算ですが、オリンピック・パラリンピック誘致推進事業として2,900万円余をお願いしております。キャンプ地誘致に引き続き取り組むほか、聖火リレーの準備を進めてまいります。

○西村体育保健課長 体育保健課でございます。

本課関係の、平成30年度予算につきまして御説明をいたします。

(2)2020東京オリンピック選手育成支援事業でございますけれども、本年度同様オリンピック実施31競技からの推薦を出していただきまして、30名程度を指定し実施する予定としております。総額予算で2,128万3,000円を計上し、引き続き取り組んでまいります。

○奥山障がい者支援課長 障がい者支援課でございます。

(3)について御説明いたします。

障がい者支援課においては、東京パラリンピックに向けた選手の育成・強化を担当しており、平成30年度予算においてもパラアスリートの育成強化推進事業を行うための予算として、1,100万円を提案させていただいております。

具体的には、本年度13名の選手を強化選手として指定しましたが、さらに絞り込み11名程度の選手を強化選手として指定し、合宿、遠征費の補助を行うほか、心理学、生理学、栄養学等の多方面の支援を行うこととしております。これらの支援により、東京大会に本県関係者が出場できるよう取り組んでまいります。

以上です。

○小金丸国際課長 国際課長の小金丸でございます。着座にて御説明させていただきます。

それでは、32ページをお願いいたします。

私からは、国際スポーツ大会に向けた国内、海外からのインバウンド対策について御説明いたします。

まず、1の海外展開推進本部 国際スポーツ部会の取り組みについて御説明いたします。

インバウンド対策を全庁的に検討していくため、国際課で担当しております海外展開推

進本部に国際スポーツ大会部会を設け、昨年11月に最初の会議を開きました。

その後、ワーキンググループを立ち上げ、関係課において昨年12月、本年1月に、計3回の担当者レベルでの会議を行っております。

また、その間、熊本市との連携も図るため、昨年11月に県市連絡会議も開催し、インバウンド対策に関する協議を行っております。

次に、33ページをごらんください。

インバウンド対策の目標となる、観光客数の見込みです。

まずラグビーについてですが、日本のオフィシャルエージェントのJTB、後ほどまた触れさせていただきますが、オフィシャルトラベルエージェントは公式旅行会社と申しまして、各国一、二社程度指定された旅行社でございまして、唯一チケット付きのツアーを販売できる許諾を受けた会社となっております。

このJTBの想定によりますと、日本全体の観客数は約180万人、うち日本人が140万人、外国人が40万人となっております。

表の下の米印に記載しておりますが、外国人の割合については、前回の2015年イングランド大会の実績から、全体の約2割と想定されております。

表の中段の九州3会場についてですが、これは各会場の収容人数にラグビーの試合回数を掛け合わせ、九州の観客数を約32万人、うち日本人を25.6万人、外国人を6.4万人と見込んでおります。

なお、日本人の欄の中に、「宿泊なし」「あり」という記載がございますが、JTBの想定によりますと宿泊を伴う日本人は、外国人と同様全体の約2割ということですので、それを記載しております。表の下の米印の2つ目に、その説明を記載しております。

それから、表の下段の熊本会場ですが、収容数3万人の会場で試合が2試合ございます

ので、観客数は6万人、うち日本人は4.8万人、外国人を1.2万人と見込んでおります。

次に、ページをめくっていただきまして、34ページをお願いいたします。

次に女子ハンドボールについてですが、全体の観客数は97年の男子ハンドボール熊本大会の実績から、約30万人と見込んでおりますが、現時点ではまだ必要な情報を十分集めきれず、日本人と外国人の人数は未定でございます。今後、先催大会等の情報を集め目標数を設定いたしたいというふうに考えております。

次に、(2)の観光客の誘客についてですが、誘客に向けた取り組みにつきましては、特別委員会がございまして3月9日、きょうを基準にこれまでの取り組みと今後の予定とに分けて記載しております。

まず、海外からの誘客に向けた取り組みについてです。これにつきましては、国際課と自然保護課で実施しております。

海外からの誘客につきましては、海外からたくさんの参加国がございまして、ターゲット国を定め効果的な誘客に取り組んでまいります。

まず、ラグビーについては、熊本で試合があるフランス及びイギリス、それからラグビー強豪国であり大分で試合がございましてオーストラリア、ニュージーランド、女子ハンドボールにつきましては、前回大会優勝国であり熊本でラグビーの試合もあるフランス、前回大会の開催国であるドイツ、そしてノルウェイ等北欧諸国、それからアジアの強豪国韓国をターゲット国というふうにしております。

次に誘客対策ですが、誘客に当たりましては国際スポーツ大会で想定される欧米、豪州からの観光客は大部分が個人客、F I T客と言われておりますので、F I T向けに対策の重点を置きまして、インバウンドの対策を行う予定というふうにしております。

これまでの取り組みといたしましては、F I T対策として、34ページから36ページに記載しております。東京都との連携事業を昨年度から行っており、今年度も、資料に記載のとおり各種観光P R事業を行っております。

36ページをお願いいたします。

また、このほか日本政府観光局、J N T Oですが、J N T Oや九州観光推進機構と連携した取り組みを行っております。

37ページをお願いいたします。

そのほか、自然保護課では国立公園満喫プロジェクトに取り組んでおります。

次に、団体旅行対策としましては、37ページの下段から38ページ上段にかけてですが、ラグビーワールドカップのオフィシャルトラベルエージェント、先ほどのO T Aでございますが、先ほど申し上げたとおり各国に1から2、それから全部で21社が指定されております。このO T Aが参加するワークショップがロンドンで開催され、ここに本県の職員も参りまして、観光P Rを初めO T Aと直接やりとりを行う関係を既に構築しております。

それから38ページの下段になりますが、このほかイギリス、フランスでありました九州観光プロモーションにも本県から参加し、現地で観光P Rを初め旅行会社との商談、スポーツ雑誌社、ラグビー関係者等との関係者へのセールスも行っております。

次に、40ページをお願いいたします。

今後の予定ですが、F I T対策といたしましては、今年度中から既存の予算を活用して既に取り組んでおります。ウェブやS N S、トリップアドバイザー等のオンライントラベルエージェントへの観光情報発信ですが、この1つとして日本在住のイギリス人、フランス人ブロガーを本県に招請し、体験記事を発信する事業を今年度中に実施予定です。

そのほか、観光サイトの「なごみ紀行」のフランス語、ドイツ語翻訳を加えた多言語化、また、ことしの夏「ミシュランガイド熊

本・大分2018特別版」の出版に合わせまして、英語版のウェブサイトを構築いたしまして、熊本の食の情報発信を行います。

次に、41ページをお願いいたします。

さらに、JAL、ANAと連携した誘客キャンペーンなどを、順次実施する予定としております。

団体旅行対策といたしましては、先ほど申し上げたオフィシャルトラベルエージェントを対象といたしまして、ラグビーの試合開催県が連携し、フランスのOTA及びスポーツメディアの招請事業を今年度中に実施予定としております。

新年度では、ターゲット国とするOTA等の招請事業を順次実施してまいります。

42ページをお願いいたします。

次に、②国内、県外からの誘客に向けた取り組みですが、観光物産課で実施しているものでございます。熊本デスティネーションキャンペーンを挙げております。これは、これまでも実施し、また今後も継続して取り組んでいくものですが、県とJR6社が連携し、来年7月から9月、ラグビーワールドカップの直前まで実施される全国規模の誘客キャンペーンでございます。

この国内最大規模の観光キャンペーンに向け、観光素材の発掘、磨き上げやおもてなしの対応強化などを実施していく予定としております。

次に、42ページから44ページにかけて、(3)受け入れ環境整備ですが、43ページをまずお願いいたします。

観光物産課と情報企画課で、観光施設の多言語化対応や、くまもとフリーWi-Fiの整備などの取り組みを行っております。

44ページをお願いいたします。

今後の予定といたしましては、熊本を訪れた外国人がストレスなく県内を観光し宿泊できるよう、外国人観光客と観光施設スタッフ等を電話にてサポートする15言語対応の多言

語コールセンターを九州共同で運用する予定としております。

また、情報企画課の事業ですが、くまもとフリーWi-Fiについて新年度に集中的に整備を行う予定としております。

(4)その他、44ページから45ページにかけてですが、今後くまもングループや文化企画・世界遺産推進課、文化課でくまモンを用いた各種PR、各種イベントでの熊本文化の魅力発信、潜伏キリシタン関連の世界文化遺産、熊本城等の情報発信などについて実施する予定としております。

今後、部局横断的に国際スポーツ大会に向けた観光客の誘客や観光客の受け入れ、環境整備、その他熊本の魅力発信に努めてまいります。

私からの説明は、以上でございます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 46ページをお願いいたします。

2の、国際スポーツ大会関連予算についてです。

別冊の事業一覧も、あわせてお願いいたします。

ただいま国際課から海外からの誘客についての取り組みが説明されましたけれども、これらを含め国際スポーツ大会の成功のためには、県全体が一丸となって取り組まなければなりません。

このため執行部では、知事を本部長とし、全部局長から成る国際スポーツ大会推進本部を設置しており、知事を先頭に全庁的な取り組みを推進することとしております。

別冊の事業一覧は、県の来年度事業のうち国際スポーツ大会に関連する事業の抜粋ですが、例えば、めくっていただいて3ページのまん中ほどになりますけれども、土木部では大会の開催を見据えた沿道景観の改良普及や除草・防草対策に集中的に取り組まると聞いております。

また、4ページでは、上から3番目ですが、農林水産部において国際スポーツ大会での本県農産物を供給するための販売促進活動を実施されます。

このように各部局、国際スポーツ大会の開催に向けた取り組みが年々ふえてきております。今後も大会成功に向け、県庁挙げて取り組みを進めてまいります。

○平井人事課長 人事課でございます。

資料の46ページ、3の、「平成30年度の県における組織体制について」をごらんください。

平成30年度は、女子ハンドボール世界選手権、ラグビーワールドカップの2つの国際大会の開催準備、またオリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致の成功に向けて推進組織の体制強化を図ることとしております。

具体的には、その下に米印で書かせてもらっておりますが、新たに国際スポーツ大会推進部を設置することとしております。

その旨を内容といたしました、熊本県内部組織設置条例の一部改正する条例を、今議会に提案いたしております。

具体的な審議は3月12日開催の総務常任委員会において行う予定となっております。

以上でございます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 最後になりますけれども、県の組織体制の強化にあわせて合同で事務局を設置しております熊本市の体制も強化される予定です。

このため、現在、県庁6階にあります執務室は手狭になりますので、新年度からは行政棟新館8階北側に事務局を移転いたします。

また、先ほどラグビーワールドカップの件で説明いたしました大会組織委員会の地方組織LOCも同じ執務室で業務を行っていくこととしております。

大変長くなりましたが、説明は以上でござ

います。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○池田和貴委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、(1)の2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かございませんでしょうか。

○藤川隆夫委員 ハンドボールに関して、会場に関してさまざまな指摘が出てきておりますよね。これに関してきちっとした対応をこれからとっていくという話ではあるんですけど、最終的な決定権というのは、やはりIHFにあるんですかね。それを確認。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 最終的には国際ハンドボール連盟の理事会で決定されるというふうに伺っております。

○藤川隆夫委員 その際に、今一生懸命巻き返しをされていると思いますが、やはりこの八代が落ちてしまった場合のところまで本当は考えておかないといけないと思うんですけど、その部分はどういうふうに考えていらっしゃるでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 県としましては、現在の4会場で何とか開催できるようにお願いはしておりますけれども、やはり大会は絶対開催しなくちゃいけませんので、当初、山鹿会場が指摘された際に、県立体育館をそのかわりの予選会場として検討しておりますので、その県立体育館の利用も想定しながら検討していきたいと思っております。

○藤川隆夫委員 いろんなことを考えていながら、補完できるような形で、ベストは今の会場でもらうのがベストなんですけど、最終的な決定権はIHFにあるということなん

で、それに対するアプローチは当然として、最悪の場合のことで想定し、その中で補完できる体制もきちっと組んでおいていただければと思います。よろしくお願ひします。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 はい。

○池田和貴委員長 ほかに質疑ございませんでしょうか。

はい。ほかに質疑がなければ、次に(2)ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑はありませんでしょうか。

○藤川隆夫委員 ニュージーランド学生代表と九州選抜は4月28日に行うということなんですけど、現状の誘客というか集客というか、その付近の状況というのは、どういうふうになっていますか。わかる範囲で。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 県ラグビーフットボール協会と連携してやっておりますが、ちょっと集客状況は済みません、ちょっとまだ把握していません。申しわけございません。

○藤川隆夫委員 だって、もう時間ないですよ、正直言って。私も、これがあるのは余り詳しく知らなかったし、今これで見ても再度確認したところなんですけど、きちっとやらないと、これまた埋まらないような状況ができると思いますよ。それだけ指摘しておきます。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 今、ワールドカップのチケット販売に関して、結構いろんな人から、これは多分、国際ラグビー協会が決めることだと思うんですけども、ネット販売だけじゃなかなか、アドレスを持ってない方とかは買

えないというような話があるんですが、今後それが緩和される予定というのとか、働きかけとかそういうのはしているのでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 大会組織委員会に対しましては、もちろん本県からは、前回のルーマニア戦の例もありますので、そういったID登録以外の販売もできるようにお願いをしておりますけれども、現在のところはID登録以外は考えてないということです。

また、大会開催の12都市も合同でそういう会議もありますので、そういう席でもそういう意見は上がっておりますので、また引き続き要請はしてまいりたいと考えております。

○池田和貴委員長 ほかにありませんか。

なければ次に、(3)2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑ありませんでしょうか。

ないようではありますが、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○池田和貴委員長 ないようでございますので、次に共通する事項について質疑ありませんでしょうか。

○溝口幸治委員 共通する事項で、先ほど国際課の小金丸課長が海外展開の推進本部の件とかいろいろ話していただいて、非常に精力的にやっけていただいているなあという感覚を持ちました。

で、今後の予定とかもずっと見たときに、済みません、これは私と淵上先生と松田先生のところ関係あるんですけど、日本遺産ですね、これはそもそも2020年に向けて国内外からのお客さんをしっかり呼び込むために日本で100カ所つくりましますよというかけ声で始まって、そこに幸い熊本県で今2カ所入ったわけですね。まさに2020を目指してやっけてきているんですけど、このあたりが何か、ずっと

私も注意して見たんですけど、どこも触れられてないので、まさに山鹿、菊池のほうでも今、日本遺産をしっかりと獲得したのはいいけども、ちょっとどうやって活用したらいいのかなというのが、共通の人吉、球磨、山鹿地域、同じ悩みなんですね。まさに一生懸命やっていただいて取ったので、このあたりもやっぱりしっかり、まあ議論はされているんだと思いますけど、観光課、国際課それから全庁的にしっかり入れ込んでいただいて議論してほしいというふうに思います。それは何かあります。要望でもいいけど、課長が何か手を挙げておるので。はい、どうぞ。

○永友観光物産課長 日本遺産につきましては、球磨と菊池については現在、先ほど小金丸課長の説明の中にありましたけど、来年のDC、熊本デスティネーションキャンペーンの展開の中でしっかりプロモーションかけていくということで、今、各地域で地域ワーキンググループというので、市町村、観光協会、メンバーとして、今しっかりと地域の核となるものをしっかり磨き上げていくと、ブラッシュアップするということを取り組みをしておりますので、当然その日本遺産については、その中に含まれてくるということで、DCMを経た取り組みを今進めているということが1点と、あと情報発信もしっかりと、地元もやられていますので、本県の観光サイトの、県の観光サイト「なごみ紀行」でも一応、特殊ベースというか、トップ画面のほうに置いて見れるような形に今、情報発信のほうもしっかり取り組んでいるという状況でございますので、引き続きそこはPRをしたいというふうに考えています。

○溝口幸治委員 じゃ、ぜひよろしくお願います。

続けていいですか。

○池田和貴委員長 はい、どうぞ。

○溝口幸治委員 済みません。組織の話がありました。部を設置してやっていく、全庁的に取り組むということで、再三、私もこの委員会でも、もう少し全庁的な取り組みが必要ではないかというお話をさせていただきましたが、いよいよ本格的に部が設置されるということで非常にありがたいというふうに思いますが、まさにこれから、この委員会がこれから、来年が山場になってくるんですね。なので執行部のほうも、今よりももうちょっと関係各課がしっかり出席をしていただいて議論を深めていくことも必要ですし、我々この委員会としても通常の年4回のペースでいいのかということも、我々の側も問われてくると思いますので、そのあたり執行部と、委員長、副委員長も含めて委員会のあり方、それから執行部の出席者のあり方も含めてよく、本当に全庁的にやれる体制をお互いにやっぱり模索していく必要があると思いますけど、そのあたりについては部長に。

○奥園商工観光労働部長 2019年の国際スポーツ大会開催まで1年半切ったということで、期間がもうないような状況の中でございます。

県庁一体となってということで、我々もいつも言っているわけなんですけれども、やはりかけ声で終わることなく実行たらしめるためには、やはりそういうような実務的なところも入れ込んで、この場で検討いただくのが一番実効性たらしめるのかなというふうにも思いました。

前回インバウンドの話も、この委員会の中でもう少してこ入れしないとということで、ちょっと行政側もてこ入れをしまして、いわゆるそういう国際課を中心にまとめてきたわけでございますけれども、その中でもやはり、「あ、こういうことも連携とれるんだ

な」というようなことを改めて、こちらのほうも認識したところがございます。やはり、こういう進展してまいりました。単に開催するだけじゃなくて、例えばラグビーですと、やはり外国人の、欧米の方が初めて来られるチャンス、そういう中で、やはり将来の熊本の観光を見据えてその礎をつくるんだと、そういう意識でやっぱり取り組むべきだというふうなお話、それからハンドボールにつきましては、八代会場のこともありますけれども、やはり県全体で盛り上げながらやっていくというのを、もう少し、どう実行たらしめるのかというふうなことを課題としてやっぱりやっていくためには、もう少し枠を広げて全庁的にやるべきだというふうに思っておりますので、今の御提案ちょっと真摯に受けとめさせていただいて、また協議をさせていただければというふうに思っております。

○溝口幸治委員 ぜひ、充実を図っていただきたいと思えます。部にはまさに、今から人事でそれなりの優秀な方々をしっかりと集めていただくので、そこはもうお任せするとして、しっかりと充実した部にしていただきたいというのが1つと、もう一つは、ハンドボールにしてもラグビーにしても、今現場でいろいろ汗をかいていただく人って、学校の先生が非常に多いような気がします。学校の先生以外にも、企業にお勤めの方とかもいらっしゃいますけど、特に企業の場合、協力の要請文とかいうぐらいしか県は出せないのかもしれませんが、学校現場というのは、ある意味、県も教育委員会がありますので、教育委員会からその現場で頑張っている先生たちへの、より頑張れる環境整備というか少し、もちろん、いろいろなところの先生がやられているのでそこが一番大事だと思いますが、ラグビーとかハンドボールの仕事でもやれる環境づくりですね、そのあたりを教育委員会、何か考えていらっしゃると思いますか。

○山本教育理事 教育委員会としましても、こういう国際スポーツ大会、子どもたちにはしっかり見ていただいて、これからの次の世代を担う人たちに、また理解をしてもらいたいというふうに思っていますので、今、溝口委員の御指摘のありました点について、現場の先生たちがやっぱりハンドボールとかしっかり頑張っておいで先生はたくさんおられますので、そういった方々がしっかり、そういう対応がとれるような形のことになるように、私たちもしっかりそこは配慮していきたいと思っています。

これが何年も続くわけではございませんので、その、これから先の1年半でございますので、そこを私たちもしっかり配慮してやりたいと思っております。よろしく願い申し上げます。

○溝口幸治委員 何で私がそういうふうに思うかということ、なかなか先ほど部長もおっしゃいましたように気運の醸成というか、全県下が何かラグビーワールドカップ、ハンドボールも含めて2019年を迎えるという雰囲気はまだまだなっていないので、特に学校現場ってちょっと浮世離れしたというか、ちょっと違う空間なので、やっぱり管理職の人たちにしっかりやっぱり、そこに向けて準備をしていただく、理解をしていただくというようなことをぜひお願いをしたいと思います。

それから、その気運醸成という点では、例えば新しい部ができれば、その気運醸成をするための、何というかな、天草地方でラグビー、ハンドボールはこういう大会なんですよ、ビジネスチャンスもこういうものがありますよみたいなセミナーみたいなものを、天草とか人吉、球磨とか山鹿、菊池とか荒・玉とか、やっぱりそういうのをやっていく必要があるんじゃないかなと思います。

私も、いろいろな会合でお話をしている

と、観光業者の、観光関連の方でさえ「ああ、そんなことがあるんですね」みたいな感じなので、特に観光とか飲食業とか、こういう人たちをしっかりと巻き込んで受け入れ態勢をとっていく必要があると思います。

まず競技の大会を成功させることも必要ですが、経済波及効果をどれだけ高めていくかというのが、今度新しい部の大きな仕事でもあるし、まさにそれは全庁的にやるべきものだと思いますので、そのあたりについて、その気運醸成をどう図っていくと今思われているのか、小原さん。

○小原国際スポーツ大会推進局長 溝口委員がおっしゃられた経済波及効果が今回の国際スポーツ大会の一番の成果につながっていくものだと思っております。

池田委員長のほうからもいろいろとアドバイスをいただいております、ロータリークラブとかライオンズクラブとか、あるいは青年会議所とか、やはりその地域の経済活動の核となっておられる方々にどうやって働きかけていくかというのが非常に重要じゃないかと感じておりますので、今後、組織の拡充も含めて備えまして、そういったところに直接出向いて行って、働きかけあるいは観光業界の方々にもそういったところをしっかりと伝えてまいりたいと思います。

○池田和貴委員長 よろしいですか。

○氷室雄一郎委員 このラグビー関係で、熊本市もかなりの予算を組んでおられるわけですよ。設備等は説明ございましたけれども、熊本市の関与の部分としては、どういうところをどのように進めておられますか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 今回のラグビーワールドカップは、県と熊本市共同が、2つが開催都市、合同での開催都市とな

っております。大会の会場の県立総合運動公園陸上競技場、これは県の施設ですので、この工事で後々まで残る、例えば今回の照明でありますとか座席とか、そういうのは県の事業として取り組んでおります。それ以外の運営経費、これについては県と熊本市で、費用は折半ということで取り組んでおります。また事務局も、基本的に県と市が半分ずつ人を出してやるということで取り組んでおります。

○氷室雄一郎委員 場外の仮設等は、全く市の部分として取り組んでいかれるんですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 場外の部分は、県と市折半で実施することになります。

○氷室雄一郎委員 どういうものが、事務局としては考えられるんですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 例えば、大会当日だけに必要な記者のための席でありますとか、VIPのための施設でありますとか、そういったものは仮設の対象になると考えております。

○氷室雄一郎委員 その県、市の連携等はもうでき上がっておるんですけれども、常時、打ち合わせ等は行っておられると思うんですけれども。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 日々、同じフロアで顔を突き合わせて業務はやっておりますし、あと市の担当課との連携と申しますか、そういったものもいろいろ会議等を通じて連携を図っているところでございます。

○池田和貴委員長 よろしゅうございますか。はい。

ほかに質疑ございませんか。

○松田三郎委員 共通する事項で1つですね。いろいろ説明がありまして、ラグビーでもハンドボールでも多くの国から来ていただくことを期待しております。

我々も含めて、その国、来られる国の国柄とか国の大体の話というのは、最低限理解する、勉強することが必要だろうし、有用だろうと思っております。

ハンドボールに関しては、24カ国、日本を除けば23で、フランスが決定している、追々これから決まってくるんだろうと思っております。

少なくともワールドカップ、外国に関しては4つが決まっていて、私たちもこの委員会で各大使館に、当時まだウルグアイは決まっておりましたので、ほかの参加国には大使館まで行ったわけでございます。

ぜひ、さっき言いましたように、我々も自分たちでその国のことを勉強すると。と同時に、いろいろな有用な情報があったら、特に国際課あたりからですね。

ちょっとお尋ねしたいのは、ウェールズの大使館に行ったときにもお尋ねしたんですが、平均的な日本人の場合は、イギリス、イギリスと言って、通常ウェールズだろうがイングランドだろうがスコットランドだろうが、余り区別をせずに使っている。例えば、そこに住んでいる人からすると、イギリス人と言われると、いやいや私はウェールズ人だというような肌の感覚はわからぬわけですね。これがじゃあ国際課長はわかるかということ、まあ今後の要望ですけれども、そういったところも含めていろいろ、全部をここに、ハンドボールも含めてやるというのは難しいかもしれませんが、今後そういうところも、部を充実させられるのであれば、我々にも情報提供をお願いしたいと、要望が1つでございます。何かありますか。

○小金丸国際課長 今いただいた御要望、質問でございますが、先日、特別委員会の先生方で行かれたウェールズ日本代表それからフランス大使館、私どもも同行させていただきまして、先生方のおかげで、いわゆるネットワーク、コネクションがつくることができました。

それで、一応予定でございますが、4月下旬に全市町村の観光担当課、それから観光連盟に全部加入されておられる、旅館業の方を含めて、商工会の方々とか、そういった方々をちょっと全員お招きして会議をやると思うんです。そこに一応今のところウェールズの日本代表のこの前の中島様においでいただくということで、話もあっております。

またフランスの、先ほど申し上げましたOTAの1社のクラッシュというところがございまして、そこもおいでいただくような話になっています。

そういった中で、今先生方がおっしゃったような世界各国の地域の文化とか、あるいはラグビーがどういう文化で根づいているとか、そういったものを含めて実施したいというふうに考えておりますので、引き続き努力してまいりたいと思っております。

○池田和貴委員長 松田委員、よろしいですか。

○松田三郎委員 はい、結構です。

あと済みません。さっきハンドボールのところちょっと質問すればよかったんですけど、よろしいですか。

○池田和貴委員長 どうぞ。

○松田三郎委員 先ほどの藤川委員の御指摘に関連してですが、その会場の件で。

例えば、八代市にとってみれば、大分以前

の男子のハンドボールの会場でも使用した実績がある。去年の視察でも、別に何も触れられなかった。さあこれからというときに、降って湧いたように、いやいやテレビの中継ができませんよと言われると、八代市側からするとまさに寝耳に水で非常に困っていらっしゃるというか、まあ怒っていらっしゃるんだろうと思います。

一方、県に対しても、ある人が、いやあ県のほうももうちょっと早く情報をつかんで、詰めが甘かったんじゃないだろうかという人がいますが、まあ先ほど八代市に関して言ったように、同じ理由で県も、そこまで言われてもということがあって、別に落ち度があったと私は思っておりません。

そこでなかなか、国際スポーツ機関ですので我々の力関係とか、マスコミが入っておりますので、余り露骨な言い方は避けたいと思いますが、このIHFの理事会が決めるとはいえ、やっぱ今までの、この前の平昌オリンピックでもよく言われたように、その放映権を持っているテレビ会社、聞くところによると、この出資しているところは多国籍で本社がどこどこで社長が何人だといろいろな複雑な会社だそうでございますが、恐らくこういうところが、実質的にはこの影響力、発言力を持っているのかもしれないし、いやいや、やっぱそうは言っても、そのIHFが強大な影響力を持って最終的には決めるんだ、形式も実態もそのとおりかもしれないし、私たちとしても開催地が「開催してあげるんだ」と言える立場なのか、逆に「開催させていただくんで、よろしく願います」という立場なのか、そういう関係もわからずに申し上げますが、気持ちとしたら八代、山鹿で開催できないんだったら、これはもう熊本で開催する意味がないというぐらいの気持ちで、皆さんも我々も一緒だと思いますので、どこにどういうアプローチをすれば一番効果的なのか、わかる範囲で きょうじゃなくていい

ですよ、我々議員も一緒になって、余り時間がないことだと思いますので、そういう態勢で遠慮なく我々にも、こういうふうなことですからというのを言っていたらと思えますし、大体いつごろというのはわからぬのですが、これ理事会で決定される時期というのは、幅があってもいいですけど、大体想像がつくものですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 理事会の開催時期は、尋ねましたけれども、まだはっきり決まってないということの回答でございます。

○松田三郎委員 準備のこともあるでしょうから、大体、予想でこれぐらいかなというのは課長なり局長は、別に「あんとき、あげん言うたでしょう」とは言うつもりはありませんので。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 会話の中で秋ごろという雰囲気はありましたけれども、それじゃちょっと準備が間に合わないので、もう少し早く改善案を提案して、早めに意思決定をしていただくように働きかけたいと思っております。

○松田三郎委員 確かに秋ごろじゃちょっと難しいでしょうからですね。決定の時期を含めて効果的なアプローチの仕方、一緒に頑張っていこうと思っておりますので、一緒に頑張ってもらいましょう。

以上です。

○池田和貴委員長 ほかに質疑はありませんか。

ないようでございますので、最後ちょっと一言、私のほうからもお願いしたいと思います。

今までの議論を踏まえまして、また今回の

2月定例県議会でも、吉永先生、高野副委員長、また私も一般質問させていただきました。

その答弁も踏まえて、また今回の議会の冒頭に知事の思いも表明をしていただきました。これは、どうしても成功しなければいけない大会だということを知事が明確に、いろんなところでおっしゃっていらっしゃいます。そのために皆さん方も頑張っていらっしゃって、いろいろな体制を整えていただいているというのはわかります。

ただ、やっぱり通常の業務も抱えながら、この2019年に向けてやっていかなければいけないという大変な状況もございます。そういった意味では、いろんなところで時間が足りなくなってくるんじゃないかというふうに思うんですね。

そういったことを考えると、やっぱり庁内の議論には多くの皆さん方が参加されるというふうに思いますし、また氷室先生がおっしゃったように、熊本市の皆さん方との連携も大切だというふうに思います。ただ、私たちのこの委員会にも、やはりなるべく多くの方々が参加をしていただいて、そういった感覚とかそういったものをぜひ聞いていただければというふうなのは、先ほど溝口先生の御意見にもあったんじゃないかというふうに思いますので、今言った議論につきましては、次の年度、新たな年度に入る委員会の皆様方にも私のほうからしっかりと引き継ぎをさせていただきたいというふうに思っております。

やはり現場に参加をすることも大切だ、それは議論も含めてなんです、そこはやっぱり確保しながら、やっぱり時間も短縮しながらやっていくようにできればというふうに思っておりますので、奥菌部長もおっしゃいましたが、各部の皆さん方にもそういったことをぜひ御説明していただいて、なるべく多く

の方々にさまざまな問題を解決するために、話があるときには参加をしていただくようお願いをしたいというふうに思っております。

ほかになければ、そのままこれで終了したいと思いますが、よろしゅうございますか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

次にその他に入りますが、何かございませんか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 済みません。先ほどのラグビーのニュージーランド戦の件で、今の入場料の販売状況は把握しておりませんが、この大会はラグビー協会の御厚意で、一般席においては高校生以下は無料となっております。

こういうこともあわせて、先生方からもPRをお願いしたいのと、あと、この大会はボランティアの実地研修も兼ねて行いますので、そのこともあわせて、ここにおられる皆さんPRしていただければ大変助かりますので、よろしく願いいたします。

○池田和貴委員長 ほかにありませんか。

なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前11時8分閉会

○池田和貴委員長 ここで、本年度最後の委員会でございますので一言御挨拶をさせていただきます。

1年間、皆様方には大変お世話になりました。

私自身、初めてこの特別委員会に所属をして、委員長という大任を仰せつかったところでございます。

入ってみまして、まず最初に熊本で初のラグビーテストマッチがございました。その後、大会方向も決まり、ドイツにも高野副委員長とともに視察に行かせていただき、現場の雰囲気も見させていただき、改めて体験を積み重ねていくごとに、この大会の大切さというのが身にしみてわかってきたところでございます。

よく周囲の皆様方からいろいろサポートをいただきまして、何とか委員会を最後まで務めることができました。本当に、心から感謝申し上げたいというふうに思っております。

この1年間につきましては、いろいろ皆様方にもいろいろあったかというふうに思いますが、本当に支えていただくことに心から感謝を申し上げたいというふうに思っております。

今後とも、2019年に向けて皆様ともども一緒に頑張っていければというふうに思っております。来年度以降も、私も委員長をさせていただいたこの経験を生かして、いろいろな形で協力させていただきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます、最後の御挨拶にさせていただきたいと思っております。

お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

それでは、副委員長のほうからも、一言御挨拶をお願いいたします。

○高野洋介副委員長 それでは、一言御挨拶を申し上げます。

この1年間、池田委員長を初め委員の皆様方の御支援、また執行部の皆様方の御支援のおかげで、何とか1年間務めることができました。

私も、池田委員長と一緒にドイツに行かせていただきましたけれども、一番感じたのは、大変さが身にしみてわかりました。来年、再来年とまた激動の年になると思いますけれども、みんなで力を合わせて必ず成功させるように、我々もしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも皆様方の御支援をよろしく願い申し上げます、1年間の感謝の御挨拶にさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

午前11時10分

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する